

事業名	ふるさと歴史散歩看板整備事業
-----	----------------

総事業費	2,821 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	身近な地域の歴史を伝え、郷土に誇りをもたせる。また、文化財を観光ツールとして活用し、本市の文化財の普及啓発を図る。	
事業の実績 と 成果	取組内容	既存の歴史散歩看板の現状調査。製作看板の選定。看板原稿の作成、レイアウト。看板原稿校正。看板製作設置業務委託契約。看板設置、検査。次年度以降の設置看板選択。看板内容多言語化への手法検討。
	成果	30基の看板を設置することができ、身近な文化財の周知・普及啓発を図る事が出来た。うち2基については、看板の向きが道路から見て反対向きに設置する必要があり、対処策として看板の裏面（道路側）に「ふるさと歴史散歩看板」の表示を追加した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	看板を全てアルミ複合板製にするには、あと最低4年を要する。 看板を立てた後の管理や、看板を利用した啓発活動の充実。 また、多言語化やQRコードなどの活用も検討する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	当初の目標どおり、看板を製作設置することができた。 全ての看板を建て替えるため、今後も計画的に取り組む必要がある。また看板を活用した普及啓発活動を行う必要がある。 看板の多言語化についてはその手法について、調査研究を行ない検討していく。

④ 改善 (Action)

2021年度方向性	看板の製作設置（30基）。看板を活用した文化財の普及啓発活動。 ※当初40基を目指していたが、地域振興推進事業が採択されなかったため、これまで同様に30基ペースでの取組とする。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	看板設置風景

事業名	西之表市いけばな展開催事業
-----	---------------

総事業費	329 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	伝統文化に親しむ機会を提供し、その継承、普及啓発、活用を図る。	
事業の実績 と 成果	取組内容	鉄砲館において、いけばな展を開催。市内華道単体の作品展示、いけばなの歴史を紹介する史料展、いけばな体験教室などを行った。 なお、この2日間は、鉄砲館を無料入館とした。
	成果	市内華道団体の活動発表の場を提供でき、伝統文化の保存・各団体の活動促進になった。 本市のいけばなの歴史・伝統文化の普及啓発を図ることができた。 小学生から大人まで、伝統文化に興味関心をもってもらうことができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	本市のいけばなの歴史については、だいぶ浸透してきたが、さらなる普及啓発が必要である。 島内いけばな団体の会員数が減少、高齢化しており、伝統文化を継承する担い手(会員)不足が問題である。 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。今後も感染拡大防止策の徹底が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	新型コロナウイルス感染症の影響により市内華道団体の参加は減ったが、作品展示、史料展、体験教室と、質を落とすことなく、開催することができた。会場を鉄砲館にすることにより、より多くの方に観覧してもらうことができた。 課題は、伝統文化の担い手である、各団体の会員の高齢化、会員不足であるが、市民にいけばな展のなかで、いけばなは身近な伝統文化であることを認識させ興味をもってもらい、だれでも気軽に伝統文化(いけばな)に参加できるようなものにしていくために、そのきっかけ作りが引き続き必要である。

④ 改善 (Action)

2021年度方向性	伝統文化(いけばな)の普及啓発、関連史料の調査。
-----------	--------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	種子島におけるいけばなの歴史を紹介する史料展

事業名	民俗文化財調査事業
-----	-----------

総事業費	225 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	文化財の記録保存を図る。	
事業の実績 と 成果	取組内容	調査委員会の出席。調査員による横山盆踊保存会・西之本国寺盆踊保存会への聞き取り調査及び類似する島内の芸能の調査、関連資料等の調査を実施した。
	成果	コロナ禍のため、調査委員会はリモートで開催した。保存会に対する調査で芸能の歴史をはじめ、現状や課題を整理することができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	新型コロナウイルス感染拡大により芸能の公開が中止となり、また島外の調査員による専門的な調査が予定通りできなかった。その影響で、調査報告書の作成が1年先送りとなる予定である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	南種子町教委と合同で調査を行ないながら事業を進めている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で芸能の公開が中止、さらに専門家が来島できない状態が続き、令和2年度に予定されていた調査ができていない。 次年度以降、事業計画の見直しや予算措置等について、文化庁や南種子町教委と協議・連携をとりながら進めていく必要がある。調査報告書の刊行年度は当初令和3年度としていたが、調査が遅延している現在の状況では1年先送りとなることが見込まれる。

④ 改善 (Action)

2021年度方向性	報告書刊行のための調査の実施。コロナの影響で専門家による来島調査が困難な場合は、リモートなどその対応を検討する。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	西之表市史編さん事業
-----	------------

総事業費	8,440 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	郷土の歴史を知り、本市の歴史文化や文化財、自然に対する誇りと愛着を深める。	
事業の実績 と 成果	取組内容	<p>専門部会の長から構成される編集委員会を西之表市で1回、書面で2回の計3回実施した。</p> <p>校区史・先史部会はそれぞれ会議を1回ずつ行った。自然部会については、1月に馬毛島での現地調査を行った。</p> <p>編集委員による講演会、鉄砲館での企画展を開催した。編さんだよりは年4回発行し、市民へ市史編さん事業の周知を図った。</p>
	成果	<p>編集委員会では、市と執筆者間で締結する著作権の覚書や通史編1ページあたりの文字数について協議を行い、市史執筆に向けて下準備を進めることができた。</p> <p>校区史部会では、江戸時代の古文書やお寺の曼荼羅等重要な史資料が現在も市内に残されていることが明らかとなった。</p> <p>編集委員による講演会はコロナ感染対策を講じて市民会館で開催し、約50名が聴講した。鉄砲館で行った企画展については、市内共聴業者等に取材してもらい、より多くの市民に見ていただけるようにした。</p>

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	<p>関東方面在住、または大学教員の委員が多い中世部会については、コロナ禍もあって日程調整等が難しく、執筆項目について意見を交換する場を設けられていない。</p> <p>馬毛島の現地調査に関しては、引き続き防衛省と協議を行っていく必要がある。</p>
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>コロナの影響もあり編集事務の一部に支障をきたしているが、現地調査や資料収集など概ね順調な進捗状況である。</p> <p>編集事務を進める一方で、市民向けの広報紙（編さんだより）の発行や講演会の開催などを通じ、本市の歴史文化や文化財、自然に対する誇りと愛着を深める取組ができた。</p>

④ 改善 (Action)

2021年度方向性	<p>令和2年度に調査・部会をあまり行うことができなかった専門部会のサポートを行う。</p> <p>校区史についても担当毎に進捗の差があるので、部会長と連携をとって活動のサポートを行う。</p> <p>市民、出郷者からの古資料についても、令和2年度に引き続き積極的な収集を行う。</p>
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	<p>令和2年8月29日に西之表市民会館で開催した「市史編集委員による講演会 古代・近代のタネガシマ」の様子。</p> <p>講師は古代部会の永山修一氏（ラ・サール学園）と近現代部会の奥村学氏（ひとつ葉の会）。</p> <p>コロナ感染対策で入場者数を制限した上での開催であったが、約50人の来場があり、興味深そうに聴講していた。</p>

事業名	歴史文化活用事業
-----	----------

総事業費	248 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	本市が有する歴史文化資源の魅力を知ってもらう。	
事業の実績 と 成果	取組内容	郷土の偉人 西村天囚については講演会こそ開催できなかったものの、本市が所蔵する史料を随時提供するなどして研究者と連携して調査分析を行った。 喜志鹿崎沖の旧日本軍機については、水中考古学者の来島に合わせて教育委員会、地元ダイバーとの意見交換会を開催した。 永年に渡り本市の宗教関連の研究を続けていた郷土史家の方からの資料を受け入れ、整理作業を行った。
	成果	種子島の西村家に保存されている天囚関連史料については、整理分類・目録作成が完了し、湯浅教授らによる論文が『懐徳堂研究第12号』に掲載された。 喜志鹿崎沖の旧日本軍機については、沈没船等の研究が専門の水中考古学者と繋がりができ、今後の機体の保存保護活用についてご指導いただいた。 郷土史家による書籍、研究ノート等の資料については、整理作業を行って西之表市立図書館郷土資料室に配架され、市民も閲覧可能となっている。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	島外から講師等を招聘して講演やイベントを行うことが難しい状況が続いている。 関係課（経済観光課、社会教育課文化財係）との棲み分け等、今後も随時協議しながら取組んでいく。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	コロナ禍において市民向けのイベントは開催できなかったものの、多くの市民等の協力も得ながら、歴史文化資源の掘り起こし、調査、資料収集、整理作業を行い、成果発表に向けた下準備・土台作りを進めることができた。

④ 改善 (Action)

2021年度方向性	市民が歴史文化資源に触れられるような講演会等のイベントについて検討する。 喜志鹿崎沖の旧日本軍機や古民家等の歴史文化資源については、関係団体と連携をとりながら活用案を探っていく。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	令和2年8月25日、沈没船等の測量・3Dモデル作成が専門の水中考古学者 山船氏が来島された。社会教育課文化財係、地元ダイバーを参集し、喜志鹿崎沖の旧日本軍機の保存保護・活用に向けた取組みについて、意見交換を行った。